第４学年２組学級活動（特別活動）指導案

１　題材名

モラルジレンマを生かした防犯教育（日本こどもの安全教育総合研究所より資料提供）

２　安全教育の推進

市教研安全教育部会では、千葉県内の各施設の視察研修を通して各業界の安全への取り組みを学んだり、授業研究会では、担任が授業準備に負担なく、効果がある学習を目指して研究したりし、それぞれまとめたものを安全主任研修会や紀要などを通して安全教育の推進を図っている。しかしながら、多忙な生活を送っている先生方は、毎日の授業準備に追われ、あえて領域である安全教育に目を向けることは少ない。そのため、千葉市では誰でもすぐに授業ができるゲーム形式の楽しい安全教育ができるように、各学校にゲームキットを貸し出して実践していただいている。

それだけ領域である安全教育は、推進することが難しい。特に近年は、「外国語活動」、「特別の教科道徳」のように、新しい学習指導要領に準じた教科が増えるなどのことから、安全教育指導の優先順位は最下位に近いものとなってくるだろう。ただし、今後の安全教育の推進を期待し、誰もが取り組みやすい提案をしていくことが、市教研安全教育部会の役目であると考える。

３　日本こどもの安全教育総合研究所との連携

安全教育は教科ではないため、授業準備をすることが億劫に感じる。もしも、安全教育が大阪大付属池田小学校のように教科であれば、前向きに取り組めると思うが、どうしても二の次となってしまいがちである。過去を振り返って、私は誰もが真似できる授業でなければ、どんなに内容が素晴らしいものであっても広まらないことを痛感している。そのため、近年は授業準備がほぼゼロに近い安全教育を研究してきた。防災教育に関しては、授業で簡単に取り扱えるものを実践し、効果が高く得られることを実証してきた。

千葉市は、全国で首都直下地震が起きる可能性が一番高いと言われていることもあり、防災教育の中でも特に地震災害に対しての教育に特化してきたが、松戸の児童殺傷事件を受け、防犯教育にも目を向けていかなければならないという考えから、防犯でも同様な手法で授業はできないかと研究している機関を探した。日本こどもの安全教育総合研究所との連携はそこからである。昨年度の授業研究は、防犯紙芝居「安全におうちへ帰ろう～自分を守る４つのアイテム～」（文科省選定）を提供していただき、低学年に対しての授業を実践することができた。今年度も資料提供を快く受けていただき、心から感謝している。

４　題材設定の理由

今年度は、防犯教育を考えていかなければならないという考えを強く持った。６月に起きた川崎殺傷事件は、池田小学校の過去の事件を思い出してしまうほどの恐怖を感じた。また、それを模倣するような事件も多かった。本事件を振り返り、対策を講じるような学習までにはいかないが、本授業を実践することで児童の防犯意識が高まることを願い、本題材を設定した。事件を風化させないためにも防犯教

育を今実践するべきである。

５　題材について

本題材は、映像を通して、モラルジレンマを感じたときに自分はどう行動するかを考える学習である。映像は２部構成で、第一部は、傘を忘れて雨宿りしている女児が、優しい顔をした女性に優しく車に乗るように声をかけられるシーン、第二部は、男児が、うずくまって足をくじいている男性に病院に連れて行ってほしいと声をかけられるシーンである。どちらのシーンも児童が一人になっているときに起きていることなので、自分だけで考えなければならない局面でのモラルジレンマを味わうことになる。資料提供は、日本こどもの安全教育総合研究所であり、授業活用の承諾を受けている。約５分の映像を分けて観て、それぞれにおいて自分の決断を考え、危険回避能力を育てたい。

第一部

 ①雨の中、女児は傘を忘れたため、雨宿りを余儀なくされるシーンからスタートする。	 ②そこへ通りかかった車から、優しそうな女性が車に乗るように声をかけてくる。
 ③女児は、母に言われたことを思い出し、困った顔をしてどうしたらよいかを考える。	動画は、約２分弱程度のものであるが、内容が分かりやすいため、児童は自身の行動を考えやすい。ジレンマを感じるとはどのようなことなのかをダイレクトに味わうことができる。 いかのおすしを学んでいる千葉市の小学生にとっては、ほとんど「乗らない」という答えになると思うが、自分の身に映像のようなことがあったら、本当に乗らないで済むだろうか。

第二部

男児が下校中に足をくじいた男性と出会う。病院に連れて行ってほしいと話を受ける。	男児は、その男性を助けようとするが本当にそれでよいだろうか。

日本こどもの安全総合研究所より　「防犯モラルジレンマ学習」映像資料提供

日本こどもの安全教育総合研究所による調査から、人は困っている人を助けようとする気持ちは、自分が助けてほしいと願う気持ちより強いとのことで、第二部のシーンは第一部よりも強いジレンマを感じると思う。助けたい気持ちを抑え、どのように断るかを考えさせることが学習のポイントである。

６　児童の実態（クラス人数　２８人）

＜過去の事件について＞

〇川崎殺傷事件を知っていますか。

知っている　２８人

〇松戸で起きた児童殺傷事件を知っていますか。

知っている　　３人　　知らない　２５人

〇池田小学校の事件を知っていますか。

知っている　　１人　　知らない　２７人

家でニュースを観る家庭も少なくなっている中ではあるが、大きくメディアで取り上げられたニュースに関してはよく知っているようである。もちろん衝撃的なものほど記憶しやすい。ただし、大きくメディアで取り上げられていても、松戸の事件は小学２年生のときであり、池田小学校の事件は生まれていないときであるので知らなくても無理もない。それだけ平和な世の中なのである。平和な毎日であるからこそ、それぞれのおぞましい事件を教訓として防犯教育に生かしていかなければならない。

＜安全意識＞

〇こども１１０番の家や店はどこにあるか知っていますか。

知っている　１３人　知らない　１５人

〇知らない人に声をかけられたとき、答え方を自分の中で作っていますか。

作っている　　５人　作っていない（考えたこともない）　２３人

メディアで取り上げられていることは、メディアの中だけの世界という認識なのかもしれない。他人事を自分事として考えていくことが必要となってくる。児童には、本学習をきっかけとしても構わないので心の面での備えを持たせたい。

＜行動＞

〇知らない人に声をかけられたときどうしますか。（自由記述）

逃げる

無視する

とりあえず話を聞く

良い人か悪い人かを、話を聞いてから見極める　など

様々な回答があったが、危ないと察したら逃げる、無視するという考えは持っているようである。教師としては、大人に対して素っ気ない態度ばかりする児童を育てたくない反面、犯罪に巻き込まれないように気を付けてほしいという複雑な気持ちがあるが、本題材は松戸の児童殺傷事件のように、身近にいる人の犯罪、つまり助けようとしてくれる人や、困っている人が実は犯罪者だったということを児童が味わうことで、防犯に対する意識を向上させていきたい。

７　本時のねらいと計画

〇防犯意識の向上。モラルジレンマを感じたときの自分の行動を確認（危険回避力）

〇周りの意見を聞くことで互いの価値を知る。（他者理解）

本時は、学級活動の１時間としてとして取り上げて学習してもよいが、朝の時間や帰りの時間などの１０分～１５分でも活用できるように、４５分を３つに分けて構成している。

多くの先生方が取り組み、児童に安全に対する意識を向上させてほしい。

８　本時の展開（１／１）１５分×３回で構成（ショートタイムでの学習でも取り組める構成）

過程	学習内容と児童の活動	〇指導上の留意点　　◎評価	準備物
１分	〇ジレンマの意味を知る。	〇ジレンマの意味を知らない児童のために、「どちらをとっても、デメリットがある。」など、教師は簡単に説明する。	
２分	〇映像を観る。	〇児童が雨宿りしているシーンから、優しい顔をした女性が、児童に話しかけ、車に誘おうとするところまで観せる。 〇その後児童がどうなったかは観せない。	・映像資料「防犯モラルジレンマ学習」
１分	〇ねらいを知る。 ジレンマを感じたとき、あなたはどうしますか？ グループで話し合いましょう。		
２分	〇車に乗るか乗らないかを判断し、ワークシートに理由も添えて書く。	〇乗るか乗らないかは、短く区切り、局面に至ったときの自分の考えを書かせるようにする。	・ワークシート１
５分	〇生活班で話し合う。	〇生活班で話し合って、意見を出すように指示する。	
３分	〇全体でシェアリングする。	〇意見が分かれても、互いの意見を認め合	

		うことが大切であることを話す。 ◎みんなの意見に対し、興味を持って聞いているか。（他者理解）（観察）	
２分 １分	○映像を観る。 ○ねらいを知る。	○児童が一人になったところから、病院に連れていく手前までのシーンを観せる。	・映像資料「防犯モラルジレンマ学習」
	ジレンマを感じても、断りましょう。 何と言って断りますか。みんなで考えましょう。		
３分 ４分 ５分	○自分の考えをワークシートに書く。 ○生活班で話し合う。 ○全体でシェアリングする。	○書くのに困っている児童がいた場合、「相手を傷つけないように断ろう」と助言して、断り方を考えさせる。 ○生活班で話し合って、意見を出すように指示する。 ○断り方を尊重し、すべての意見を認める。 ◎危険に対し、回避しようとする意見を学ぼうとしたか。（危険回避力）（ワークシート）	・ワークシート２
２分 １分	○映像を観る。（女児、男児のその後⇒宮田先生の映像） ○ねらいを知る。	○女児、男児がその後どうなったかを観せ、親切そうな人も不審者である場合があることを知らせる。 ○実は、安全の学習であったことを気付かせる。	・映像資料「防犯モラルジレンマ学習」
	ジレンマを感じる問題を考え、犯罪に対する力をそなえよう。		
５分 ５分 ２分	○ワークシートに書く。 ○全体でシェアリングする。 ○川崎殺傷事件の話をする。	○下校時の通学路を想定させて、考えられる問題を書かせる。 ○すべてを認める雰囲気を作るために、犯罪に沿った考えでなくても児童の意見を認める。 ◎起こり得る犯罪を考えることができたか。（危険回避力）（ワークシート） ○どの考えも認め、どんなときも想定外があることを知らせる。 ○他人事ではなく、自分事として安全を意識した生活が大切であることを伝える。	・ワークシート３

ワークシート１

４年　　組　　名前（　　）

ぼく、わたしは車に

乗ります　　乗りません

理由は、

ワークシート２

４年　　組　　名前（　　）

ぼく、わたしは

と言って、断ります。

ワークシート３

４年　　組　　名前（　　）

ジレンマを感じる問題を作ってみてください。

あなたは、　　ますか。